

第2回
川辺川の流水型ダムに係る環境保全対策
アドバイザー会議

説明資料
【景観の検討状況】

令和8年2月20日



国土交通省 九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所

川辺川の流水型ダム景観ワーキンググループについて

- アドバイザー会議の個別部会として、「川辺川の流水型ダム景観ワーキンググループ」を設置し、令和7年12月22日に準備会を実施。
- 景観検討体制や景観コンセプト(案)の確認、現地視察(現況や整備後のイメージの確認)を実施。
- 景観ワーキングでの検討結果については、今後、アドバイザー会議で報告する。

<川辺川の流水型ダム景観ワーキンググループ アドバイザー名簿>

<実施状況>

星野 裕司	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 教授 【景観】
田中 尚人	熊本大学大学院先端科学研究部 准教授 【人と自然との触れ合いの活動の場】
皆川 朋子	熊本大学大学院先端科学研究部 教授 【水環境】



1/1000模型を使用した説明



河床部放流設備の説明

<景観ワーキンググループ準備会における主な意見>

- ・ダム建設工事全体で見たときには細部の工事であっても、人の目線からだと影響が大きく感じることもあるので、それらを取りこぼさないよう検討していくことが大事。
- ・工事中や完成後の利活用について、川辺川アカデミアの取組なども活かしながら、今後のどのように地域と連携していくかを探ってもらうと良い。
- ・環境と景観を一体的に捉えて検討していくことが重要。
- ・付け替え道路などの過去に整備された箇所(周辺環境へのなじみ)について、整理することは今後の検討にあたって大事。
- ・現在、川へのアクセス路が少ないので、今後の工事の計画も踏まえ利活用の面でもよりよくできるとよい。
- ・流水型ダムの特性を踏まえ、今後、危険箇所への侵入防止柵やゲートなどの設置を検討すると思うが、そのような身近な施設もデザイン管理をしていく必要がある。



ダムサイト眺望確認(ダムサイト右岸上流)



ダムサイト眺望確認(藤田バス停)